

中学生の「生き方と進路」(キャリア) 選択に関する調査研究

— 「生きる力」と夢をはぐくむ進路指導の在り方 —

神谷 孝男

(職業指導教室)

A study on Career choice of junior high school student

Takao KAMIYA

(Department of Career Guidance)

要約： 現行(平成元年3月告示)の中学校学習指導要領の総則には「生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと」が明示されており、平成10年12月に告示された新しい学習指導要領にも同様のことが示されている。

各学校においては、一人ひとりの生徒が「自らの生き方を考え」、将来の生活や人生に自分なりの夢や希望を持ち、自己の個性を生かすことのできる適切な進路を選択して、主体的に生きていけるように、「学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと」が望まれている。

本稿は、平成9年度から3年間、文部省の「進路指導総合改善事業」の実施校の指定を受けて進路指導の実践研究に取り組んでいる田原町立田原中学校(岩田 茂校長)の研究実践の内容を紹介しながら、筆者の指導のもとで渡邊明子(青年海外協力隊)が田原中学校の生徒を対象に行った「中学生の親子関係とキャリア発達に関する調査研究」のうち、「将来の生活や人生(生き方)」と「将来の職業」、「卒業後の進路(進学)」に関する調査結果をまとめたものである。

キーワード：生き方と進路(キャリア)、夢や希望、自己実現

はじめに

文部省の「進路指導総合改善事業」は「地域の様々な教育力を活用し、職業生活や社会生活などについて幅広く理解させるとともに、将来の生き方の多様性や選択の可能性等について理解させるという実践的研究を行い、中学校における進路指導の改善充実を図る①」などの趣旨で、平成6年度からスタートした。

愛知県では、平和町立平和中学校(柴田明男校長)が平成6年度からこの事業(第一期)の実施校の指定を受け、「社会の一員として自己を生かすことのできる生徒の育成——家庭・地域社会・学校が一体となって生徒の可能性をのばす進路指導の在り方」を研究主題として、3年間の実践研究に取り組んでいる。

平成6年12月2日(金)に1年目の研究発表会が開催されたが、筆者は当初より、日比野教務主任や橋本研究主任らと進路指導の基本的な考え方やその在り方、研究の進め方などについて話し合う機会を与えられた。

研究発表会の当日配布された『平成6年度 研究紀要』によれば、平和中学校の進路指導は、「『よりよく生きよう』と自分なりの可能性を求めつづける生徒の

育成をめざす」ことを中心に、「生徒一人一人の進路保障をめざす」・「家庭・地域・学校が一体となった進路指導をめざす」ことが基本目標とされ、「家庭・地域・学校の連携を深め、『開かれた学校』をつくる」ことや「意欲的で主体的な自立した生徒を育てる」などの基本方針が立てられている。

そして、進路指導に関する校内研修などを通して、全教職員の共通理解の深化を図り、協力的な指導体制を確立して、学校全体で進路指導の研究実践に取り組んでいる。研究の組織として、「研究推進委員会・研究企画部会」のもとに、「地域連携・行事研究部」・「授業研究部」・「相談研究部」・「調査・資料研究部」の各研究部が設置され、各研究部は、「各学年から2～3名ずつが部員となり、各研究部会の研究内容・実践内容を各学年に伝え、各学年内に共通認識をつくりだし、実践する。また、実践した結果を各研究部に持ち寄り、次の研究へとつなげる②」といた手法がとられた。

なお、その研究実践に当たって「すべての教育活動において、『自分さがし』の場の設定と適切な働きかけを行っていけば、生徒によりよく生きようとする自

分の可能性を求めつつける態度や能力を育てることが出来るであろう」という仮説が設定されている③。

I 田原中学校の研究実践

1 研究テーマと研究のねらい

田原中学校は、平成9年度から文部省の「進路指導総合改善事業」の実施校の指定を受け、進路指導の実践研究に取り組んでいる。

研究の推進に当たって、先ず生徒の実態把握に努め、その長所や短所から、生徒を育てる視点として、(1)自分を表現する力を育てたい。(2)自分で考え、工夫する力を育てたい。(3)他との協調性など、人間関係を築く能力を養いたい。(4)言われたことだけでなく、自分からすすんで行動できるようにしたい。(5)意見が絡まり、全体での追及が深まり、広がるようにしたい。(6)じっくりと考え、取り組めるようにしたい、という六つを列挙している。

そして、田原中学校の「自立・友愛・創造」という教育目標などを踏まえ、次頁の研究の全体構想図にあるような「めざす生徒像」を明確に設定している。

また、文部省の「進路指導総合改善事業」の趣旨やはじめにみた平和中学校などの先進校の研究実践、平成8年7月の中央教育審議会の第一次答申などから、「夢や希望を持ち、未来を切り拓く生徒の育成」を研究テーマとしている。研究テーマに迫る視点(サブテーマ)を「生きる力を育てる進路指導のあり方をめざして」とし、「自己理解(自分の個性を見つけ、伸ばし、生かす)と進路理解(職業や上級学校等の理解)をうながし、主体的な進路選択能力や、将来の社会人として必要な資質・能力を育成すること。そのために、地域・家庭との連携を進め、啓発的経験活動を中心とした幅広い体験を得させるなど、総合的な取り組みを行い、進路指導の改善を図る」ことを研究のねらいとしている④。

なお、田原中学校の進路指導の目標は、「生徒が自分自身の個性や適性についての理解を深め、自らの生き方を考え、夢や希望を持って主体的に進路を選択する能力を伸長する」ことである。

2 研究の組織と授業研究部の研究内容

田原中学校では、研究の組織として「授業研究部(授業づくり)」・「体験活動部(体験づくり)」・「情報部(環境づくり)」の三つを設け、それぞれ具体的なテーマを決めて、実践的な研究をすすめている。

「授業研究部(授業づくり)」においては、「生きる力をはぐくむ授業の在り方」が研究され、ここでは、「教科の授業では、『生きる力』を身に付ける。道徳の授業では、『よりよい生き方』を見つける。学級活動の授業では、『よりよい生き方や進路』を考える」が

ねらいとされている。

各教科の授業では「『生きる力』をはぐくむために、『生徒が自ら学び、自ら考える授業』が実践され、学級活動・道徳の授業では「豊かな人間性を身に付け、生き方を主体的に考えるために啓発的体験活動を軸とした授業」が実践されている⑤。

学級活動における「将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」の指導＝「生き方と進路」(キャリア)学習の年間計画は資料1のようになっている⑥。

II 「生き方と進路」(キャリア)選択に関する調査

1 調査の目的と方法・内容等

「中学生の親子関係とキャリア発達」に関する調査は、渡邊明子が職業指導教室に在学中、(1)中学生が父親や母親との関係をどのように認知しているのか、(2)中学生が将来の生活や人生(生き方)にどのような夢や希望を持ち、どのような態度で生きていこうとしているのか等、キャリア発達の実態を明らかにすることを目的とし、平成10年9月に実施された。

調査の対象は、田原中学校の生徒412名で、その学年別・性別の内訳は、表1のとおりである。

調査は、質問紙法により、各学級担任の教師の協力の下で行われたが、本稿では、その調査の中から、将来の生活や人生(生き方)、将来の職業、中学校卒業後の進路(進学)に対する関心・態度についての結果を学年別・性別に比較する。

2 調査の結果と考察

(1) 将来の生活や人生、生き方に対する関心や意欲・態度

将来の生活や人生、生き方に関する「次のアからコまでのようなことは、あなたにはどのくらいあてはまりますか」と問うて、「あてはまるどころの番号に○を付ける」よう求めた。あてはまるどころの番号は「よくあてはまる」が1、「どちらかといえばあてはまる」が2、「あまりあてはまらない」が3、「全然あてはまらない」が4となっている。

紙面の関係で、「よくあてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」に○をつけた者のパーセンテージを表2にまとめた。「全然あてはまらない」、「あまりあてはまらない」と「無答」は省略した。

表1 調査対象者(サンプル)の内訳

| | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 男子 | 66 | 71 | 62 | 199 |
| 女子 | 69 | 74 | 70 | 213 |
| 計 | 135 | 145 | 132 | 412 |

学校教育目標

自立 進んで心やからだを鍛え、たくましく生き抜く力を養う。
 友愛 他人を思いやり、礼儀正しく、心豊かに生きようとする態度を養う。
 創造 自ら学び、深く考えて、未来を切り拓く力を養う。

めざす生徒像

- 体力・気力のある生徒
- 相手の心を思いやることのできる生徒
- 自ら考え、判断・工夫し、行動できる生徒（自分を知り、伸ばす）
- 人と積極的に関わり、互いに感化し合える生徒（社会を見つめ、かかわる）
- 将来に関心を持ち、自分を高めていける生徒（生き方を考え、拓く）

研究テーマ

夢や希望を持ち、未来を切り拓く生徒の育成
 ～生きる力を育てる進路指導のあり方をめざして～

研究のねらい

「自己理解（自分の個性を見つけ、伸ばし、生かす）」と「進路理解（職業や上級学校等の理解）」をうながし、主体的な進路選択能力や、将来の社会人として必要な資質・能力を育成する。そのために、地域・家庭との連携を進め、啓発的体験活動を中心とした幅広い体験を得させるなど、総合的な取り組みを行い、進路指導の改善を図る。

研究の仮説

学校の教育活動全体を通して、①生きる力を育てることを基本とし、②生き方と進路について主体的に考える場を設定していけば、夢や希望を持ち、未来を切り拓く生徒を育成することができる。

【小仮説①】 生きる力を「社会生活を送っていくために必要な実践的な力」ととらえる。すべての教育活動において、生きる力を育てることによって、生き方を主体的に考える態度や意欲を育てることができる。

【小仮説②】 進路指導を「自分の個性を生かす『生き方と進路』探求の旅を扶する営み」ととらえる。自分の適性に気づき、それを伸ばすことによって、夢や希望を持ち、未来を切り拓く力を育成することができる。

進路指導の目標 生徒が自分自身の個性や適性についての理解を深め、自らの生き方を考え、夢や希望を持って主体的に進路を選択する能力を伸長する。

| | | |
|----|----|--------------------------------------|
| 学年 | 1年 | 夢と希望を持って、充実した学校生活を送ることができる生徒 |
| の | 2年 | 自らの個性・適性を知り、長所を伸ばす努力のできる生徒 |
| 目標 | 3年 | 自分にふさわしい進路を選択するとともに、自己実現をめざし努力のできる生徒 |

| 部 | 授業研究部 | | | 体験活動力部 | | | 情報部 | | |
|------|---|-----------------------------------|----------------------------|---|--------------------------------------|--|---|--|--|
| テーマ | 生きる力を育む授業のあり方 | | | 生き方に触れ、体感する活動のあり方 | | | 生き方を探るための支援のあり方 | | |
| 研究内容 | ・育成すべき資質や能力を吟味し、相互の関連を図る。 ・授業・活動の改善や、教科横断的な取り組みを積極的に進める。 | | | ・発達段階に応じた啓発的体験活動の位置づけを行う。 ・中心となる活動だけでなく、事前学習・事後発表までをしっかりと位置づけ、次への深化・発展を図る。 | | | 地域連携部 | 資料研究部 | 教育相談部 |
| | 各教科部会 | 道徳部会 | 特別活動 | 1年部会 | 2年部会 | 3年部会 | ・地域の教育力を有効に活用する。 ・中学生の社会参加の場を増やしていく。 ・保護者とともに学ぶ保護者参加型の活動を取り入れる。 | ・多様化する生徒の進路に役立つ資料の収集・活用の仕方を探る。 ・生徒の進路への意欲・関心を高める環境づくりを充実する。 | ・生徒がよりよい進路選択ができるような、教育相談のあり方を探る。 ・相談事例を収集し、教師のカウンセリングの技能向上に努める。 |
| | 生きる力を各教科の側面ととらえ直し、生きる力を育てる取り組みを進める。 | よりよい生き方を考えるように、体験活動との関連指導の研究を進める。 | 啓発的体験活動を生かした進路学習のあり方を研究する。 | 職場見学習の計画・実践・発表を通して、将来に対する関心を高める。 | 職場体験学習の計画・実践・まとめなどを通して、進路に対する意欲を高める。 | 卒業生と語る会を中心とした活動を通して、主体的な進路決定ができるようにする。 | | | |

資料1 「生き方と進路」(キャリア) 学習の年間計画 (田原中学校)

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 |
|------|--|--|--|
| 4 月 | | 学ぶことの目的と意義 人間はなぜ学ぶ必要があるのか考える | 将来の生き方を考える 職業生活を考え、どんな生き方がしたいか考える |
| 5 月 | | 働くことの目的と意義 人間はなぜ働く必要があるのか考える | 自分についてのまとめ 進路適性検査から、自分の個性、適性を知る 受験制度について知ろう 私立高校の選抜方法、公立高校の複合選抜について知る |
| 6 月 | 進路の学習とは 進路学習の必要性を知る | 進路と適性① 職業適性検査の結果から、自分の適性を考える | 進路の計画 進路適性検査の結果と、2年生の進路計画を踏まえ、進路計画を立てる |
| 7 月 | 将来の希望 希望の現状と希望を持つことの大切さを知る | 進路と適性② 自分の特色をまとめ、進路計画の立て方を学ぶ | 進路先の調査計画 希望する進路先の調査計画を立てる |
| 9 月 | 自分を知る① 自分や級友の個性を認め、自分のよさを発見する 自分を知る② いいとこさがしを行い、自分を知る | 職業と産業 職業と産業の違いを調べる | 中退や転職について考える 中退や転職した理由を調査し、情報収集の大切さ、進路計画の必要性を知る |
| 10 月 | いろいろな職業 身近な人の職業調べを行い、職業の仕事の内容の違いを知る | 職業の内容と特色 労働条件の違いや、適性、職業の特色を知る。 | 進路先の調査結果の発表 高校や職場の調査結果を発表する 進路計画の最終検討 ライフプランを検討し、適切な進路を選択する |
| 11 月 | 身近な人の進路 身近な人の中学卒業後の進路について知る | 職場体験学習の計画 事業所との打ち合わせ計画や職場体験学習の意義について知る | 卒業後の進路選択 中学卒業後の進路先を進路計画や周りの人のアドバイスをもとに選択する |
| 12 月 | 職場見学学習の計画 時期、方法、観点、質問など、職場見学学習の計画を立てる | | 進学や就職の準備① 必要な手続きと注意、受験までの諸注意を知る |
| 1 月 | 職場見学の発表 働く人の喜び、やりがい、厳しさを知る | 職場体験学習発表会 勤労の喜び、やりがい、厳しさを知る | 進学や就職の準備② 面接の受け方を知り、練習をする |
| 2 月 | 進路計画の必要性 進路計画の必要性和計画の立て方を学ぶ | 学ぶための制度と機会① 上級学校の種類を知る 学ぶための制度と機会② 上級学校の具体的内容調査 | それぞれの道に向かって 中学生生活を振り返り、ライフプランを立てる |
| 3 月 | 進路計画を立てよう 将来の希望実現のための計画を立てる | 学ぶための制度と機会③ 調査内容の発表 進路と適性③ 進路計画の吟味をする観点を知り、進路計画を検討し直す | |

それによれば、「これから先の自分の生き方や人生のことが気になっている」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子31.8%、女子27.5%、2年では男子22.5%、女子33.8%、3年では男子45.2%、女子44.3%となっており、これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子75.7%、女子76.8%、2年では男子66.2%、女子87.9%、3年では男子85.5%、女子88.6%の生徒が「これから先の自分の生き方や人生のことが気になっている」と答えている。

「自分はこれから、どのように生きていったらよいか、あれこれと考えている」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子10.6%、女子15.9%、2年では男子16.9%、女子27.0%、3年では男子22.6%、女子31.4%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子65.1%、女子53.6%、2年では男子56.3%、女子68.9%、3年では男子69.4%、女子82.8%の生徒が「自分はこれから、どのように生きていったらよいか、あれこれと考えている」と答えている。

「自分にしかできないことをあれこれ考え、探している」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子19.7%、女子10.1%、2年では男子12.7%、女子24.3%、3年では男子9.7%、女子14.3%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○をつけた者を合わせると、1年では男子34.9%、女子34.7%、2年では男子42.3%、女子56.7%、3年では男子35.5%、女子58.6%の生徒が「自分にしかできないことをあれこれ考え、探している」と答えている。

田原中学校では、資料1の「生き方と進路」(キャリア)学習の年間計画によれば、1年の7月に「将来の希望」という題材で、「希望の現状と希望を持つことの大切さ」を生徒に理解させる指導を行っている。

調査が実施された2学期のはじめで、「これからの自分の人生に、自分なりの夢や希望を持っている」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子33.3%、女子42.0%、2年では男子43.7%、女子54.1%、3年では男子30.6%、女子42.9%で、女子ではどの学年においても、将来の生活や人生、生き方に関する項目の中では最も高い肯定率となっている。

表2 将来の生活や人生、生き方に対する関心、意欲・態度

(数値は百分率)

| | | よくあてはまる | | | どちらかといえばあてはまる | | |
|---|---|---------|------|------|---------------|------|------|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 |
| これから先の自分の生き方や人生のことが気になっている。 | 男 | 31.8 | 22.5 | 45.2 | 43.9 | 43.7 | 40.3 |
| | 女 | 27.5 | 33.8 | 44.3 | 49.3 | 54.1 | 44.3 |
| 世の中の人びとが、 どのような生活や人生を送っているのか知りたい。 | 男 | 12.1 | 15.5 | 8.1 | 33.3 | 39.4 | 38.7 |
| | 女 | 11.8 | 21.6 | 15.7 | 36.2 | 41.9 | 37.1 |
| 自分はこれから、どのように生きていったらよいか、 あれこれと考えている。 | 男 | 10.6 | 16.9 | 22.6 | 54.5 | 39.4 | 46.8 |
| | 女 | 15.9 | 27.0 | 31.4 | 37.7 | 41.9 | 51.4 |
| 自分にしかできないことをあれこれ考え、探している。 | 男 | 19.7 | 12.7 | 9.7 | 15.2 | 29.6 | 25.8 |
| | 女 | 10.1 | 24.3 | 14.3 | 24.6 | 32.4 | 44.3 |
| 今の自分は親や友達にとって、かけがえのない存在である。 | 男 | 27.3 | 23.9 | 12.9 | 40.9 | 35.2 | 32.3 |
| | 女 | 18.8 | 18.9 | 14.3 | 43.5 | 52.7 | 55.7 |
| これからの自分の人生に、自分なりの夢や希望を持っている。 | 男 | 33.3 | 43.7 | 30.6 | 40.9 | 29.6 | 40.3 |
| | 女 | 42.0 | 54.1 | 42.9 | 39.1 | 32.4 | 35.7 |
| 自分の夢や希望を実現させるための方法などを調べたことがある。 | 男 | 12.1 | 16.9 | 9.7 | 22.7 | 21.1 | 25.8 |
| | 女 | 10.1 | 23.0 | 12.9 | 27.5 | 35.1 | 34.3 |
| 自分の夢や希望を実現させるための計画を立てる努力をしている。 | 男 | 9.1 | 7.0 | 6.5 | 31.8 | 25.4 | 33.9 |
| | 女 | 7.2 | 8.1 | 7.1 | 17.4 | 29.7 | 38.6 |
| 生きがいを求めて、精一杯生きていきたい。 | 男 | 36.4 | 45.1 | 33.9 | 40.9 | 33.8 | 45.2 |
| | 女 | 30.4 | 45.9 | 42.9 | 50.7 | 35.1 | 42.9 |
| 人生にはつらく困難なこともあるだろうが、 逃げ出さずに立ち向かっていきたい。 | 男 | 27.3 | 32.4 | 25.8 | 51.5 | 42.3 | 50.0 |
| | 女 | 26.1 | 36.5 | 38.6 | 52.2 | 43.2 | 50.0 |

「全然あてはまらない」・「無答」などは略。

これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子74.2%、女子81.1%、2年では男子73.3%、女子86.5%、3年では男子70.9%、女子78.6%の生徒が「これからの自分の人生に、自分なりの夢や希望を持っている」と答えている。各学年間及び男女間には有意差はみられない。

ところが、「自分の夢や希望を実現するための方法などを調べたことがある」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子12.1%、女子10.1%、2年では男子16.9%、女子23.0%、3年では男子9.7%、女子12.9%にとどまっている。

反対に、「全然あてはまらない」と「あまりあてはまらない」に○を付けた者は、1年では男子65.1%、女子62.3%、2年では男子62.0%、女子41.9%、3年では男子64.5%、女子52.9%となっており、2年の女子を除いて、どの学年も「自分の夢や希望を実現するための方法などを調べたことがある」と答えている生徒より、これを否定する生徒が多くなっている。

「これからの自分の人生に、自分なりの夢や希望を持っている」の項目と、「自分の夢や希望を実現するための方法などを調べたことがある」の項目の結果から、「自分なりの夢や希望」は多くの生徒が持っているが、「自分の夢や希望を実現するための方法など」は調べたことがない生徒が全体として、過半数を上回っている。

また、「自分の夢や希望を実現させるための計画を立てて、努力している」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子9.1%、女子7.2%、2年では男子7.0%、女子8.1%、3年では男子6.5%、女子7.1%にすぎず、逆に「自分の夢や希望を実現させるための計画を立てて、努力している」が「全然あてはまらない」・「あまりあてはまらない」と答えた生徒が、1年では男子59.1%、女子75.4%、2年では男子67.6%、女子62.2%、3年では男子59.7%、女子54.3%に達している。

他方で、「生きがいを求めて、精一杯生きていきたい」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子36.4%、女子30.4%、2年では男子45.1%、女子45.9%、3年では男子33.9%、女子42.9%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子77.3%、女子81.1%、2年では男子78.9%、女子81.0%、3年では男子79.1%、女子85.8%の生徒が「生きがいを求めて、精一杯生きていきたい」と答えている。各学年間及び男女間には有意差はみられない。

さらに、「人生にはつらく困難なこともあるだろうが、逃げ出さずに立ち向かっていきたい」が「よくあ

てはまる」と答えた者は、1年では男子27.3%、女子26.1%、2年では男子32.4%、女子36.5%、3年では男子25.8%、女子38.6%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子78.8%、女子78.3%、2年では男子74.7%、女子79.7%、3年では男子75.8%、女子88.6%の生徒が「人生にはつらく困難なこともあるだろうが、逃げ出さずに立ち向かっていきたい」と答えている。各学年間及び男女間には有意差はみられない。

要するに、「自分はこれから、どのように生きていったらよいか、あれこれと考えている」と答えている生徒は、1年では、男女合わせて59.3%、2年では、男女合わせて62.8%、3年では、男女合わせて76.5%。「これからの自分の人生に、自分なりの夢や希望を持っている」と答えている生徒は、1年では、男女合わせて77.8%、2年では、男女合わせて80.0%、3年では、男女合わせて75.0%。「人生にはつらく困難なこともあるだろうが、逃げ出さずに立ち向かっていきたい」と答えている生徒は、1年では、男女合わせて78.5%、2年では、男女合わせて77.2%、3年では、男女合わせて82.6%と、それぞれなっている。

こうした項目には、各学年間及び男女間に有意な差はみられなかった。

(2) 将来の職業に対する関心、意欲・態度

将来の職業や中学校卒業後の進路(進学)に関する「次のアからタまでのようなことは、あなたにはどのくらいあてはまりますか。あてはまるところの番号に○を付けて下さい」という質問に対し、「よくあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の4つの中から、該当するものに○を付けさせた。

16項目について調査されたが、将来の職業に関しては表3に示したような5項目について、「よくあてはまる」と答えた者と「どちらかといえばあてはまる」と答えた者のパーセンテージをみることにする。

まず、「自分の将来の職業(仕事)のことが気になっている」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子34.8%、女子29.0%、2年では男子26.8%、女子43.2%、3年では男子33.9%、女子40.0%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子71.2%、女子73.9%、2年では男子60.6%、女子78.3%、3年では男子74.2%、女子78.6%の生徒が「自分の将来の職業(仕事)のことが気になっている」と答えている。

「自分の能力や性格が、どのような職業(仕事)に適しているのか知りたい」が「よくあてはまる」と答

えた者は、1年では男子37.9%、女子42.0%、2年では男子40.8%、女子58.1%、3年では男子35.5%、女子45.7%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子78.8%、女子85.5%、2年では男子63.3%、女子83.8%、3年では男子69.4%、女子80.0%の生徒が「自分の能力や性格が、どのような職業（仕事）に適しているのか知りたい」と答えている。

2年と3年では、男子よりも女子の方に「自分の能力や性格が、どのような職業（仕事）に適しているのか知りたい」と答えている者が多くみられる。

「今の自分には、やりたい仕事や就きたい職業がある」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子31.8%、女子43.5%、2年では男子36.6%、女子50.0%、3年では男子35.5%、女子42.9%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子51.5%、女子72.5%、2年では男子50.7%、女子75.7%、3年では男子66.1%、女子71.5%の生徒が「今の自分には、やりたい仕事や就きたい

職業がある」と答えている。1年、2年では、男子よりも女子の方に「今の自分には、やりたい仕事や就きたい職業がある」と答えている者が多くみられる。

しかしながら、「希望する職業に就くために計画を立てて、努力している」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子12.1%、女子5.8%、2年では男子4.2%、女子8.1%、3年では男子6.5%、女子7.1%にすぎず、逆にこれが「全然あてはまらない」「あまりあてはまらない」に○を付けた者が1年では男子60.6%、女子73.9%、2年では男子62.0%、女子55.4%、3年では男子61.3%、女子58.6%と、それぞれ過半数を上回っている。

なお、「やりがい求めて、精一杯働きたい」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子28.8%、女子37.7%、2年では男子35.2%、女子48.6%、3年では男子25.8%、女子42.9%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子74.3%、女子84.1%、2年では男子67.6%、女子82.4%、3年では男子67.7%、女子80.0%の生徒

表3 将来の職業や卒業後の進路（進学）に対する関心、意欲・態度

(数値は百分率)

| | | よくあてはまる | | | どちらかといえばあてはまる | | |
|--------------------------------------|---|---------|------|------|---------------|------|------|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 |
| 自分の将来の職業（仕事）のことが気になっている。 | 男 | 34.8 | 26.8 | 33.9 | 36.4 | 33.8 | 40.3 |
| | 女 | 29.0 | 43.2 | 40.0 | 44.9 | 35.1 | 38.6 |
| 自分の能力や性格が、 どのような職業に適しているのか知りたい。 | 男 | 37.9 | 40.8 | 35.5 | 40.9 | 22.5 | 33.9 |
| | 女 | 42.0 | 58.1 | 45.7 | 43.5 | 25.7 | 34.3 |
| 今の自分には、やりたい仕事や就きたい職業がある。 | 男 | 31.8 | 36.6 | 35.5 | 19.7 | 14.1 | 30.6 |
| | 女 | 43.5 | 50.0 | 42.9 | 29.0 | 25.7 | 28.6 |
| 希望する職業に就くために計画を立てて、努力している。 | 男 | 12.1 | 4.2 | 6.5 | 22.7 | 15.5 | 21.0 |
| | 女 | 5.8 | 8.1 | 7.1 | 15.9 | 31.1 | 24.3 |
| やりがいを求めて、精一杯働きたい。 | 男 | 28.8 | 35.2 | 25.8 | 45.5 | 32.4 | 41.9 |
| | 女 | 37.7 | 48.6 | 42.9 | 46.4 | 33.8 | 37.1 |
| 中学校卒業後の進路のことが気になっている。 | 男 | 36.4 | 28.2 | 38.7 | 33.3 | 22.5 | 33.9 |
| | 女 | 23.2 | 48.6 | 50.0 | 39.1 | 24.3 | 27.1 |
| 自分の能力（学力）や性格が どの高校・科に向いているのか知りたい。 | 男 | 45.5 | 47.9 | 41.9 | 40.9 | 28.2 | 25.8 |
| | 女 | 49.3 | 66.2 | 52.9 | 39.1 | 21.6 | 32.9 |
| 是非行きたい（目標となる）高校・科がある。 | 男 | 40.0 | 42.3 | 58.1 | 24.2 | 19.7 | 22.6 |
| | 女 | 36.2 | 39.2 | 61.4 | 27.5 | 32.4 | 27.1 |
| 今、自分が進学したい高校・科について、 詳しく調べている。 | 男 | 4.5 | 1.4 | — | 12.1 | 15.5 | 16.1 |
| | 女 | 1.4 | — | 4.3 | 10.1 | 8.1 | 21.4 |
| 自分自身が納得できる高校・科を選択して、 進学したい。 | 男 | 57.6 | 45.1 | 43.5 | 19.7 | 28.2 | 32.3 |
| | 女 | 47.8 | 64.9 | 62.9 | 37.7 | 20.3 | 28.6 |

「全然あてはまらない」・「無答」などは略。

が「やりがいを求めて、精一杯働きたい」と答えているが、女子の方にこう答える者が多くみられる。

(3) 中学校卒業後の進路に対する関心、意欲・態度
中学校卒業後の進路（進学）に関する項目の中から、表3に示したような5項目について、「よくあてはまる」と答えた者と「どちらかといえばあてはまる」と答えた者のパーセンテージをみている。

まず、「中学校卒業後の進路のことが気になっている」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子36.4%、女子23.2%、2年では男子28.2%、女子48.6%、3年では男子38.7%、女子50.0%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子69.7%、女子62.3%、2年では男子50.7%、女子72.9%、3年では男子72.6%、女子77.1%の生徒が「中学校卒業後の進路のことが気になっている」と答えている。

「自分の能力（学力）や性格が、どの高校・学科に向いているのか知りたい」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子45.5%、女子49.3%、2年では男子47.9%、女子66.2%、3年では男子41.9%、女子52.9%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子86.4%、女子88.4%、2年では男子76.1%、女子87.8%、3年では男子67.7%、女子85.8%の生徒が「自分の能力（学力）や性格が、どの高校・学科に向いているのか知りたい」と答えている。

「是非行きたい（目標となる）高校・学科がある」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子40.0%、女子36.2%、2年では男子42.3%、女子39.2%、3年では男子58.1%、女子61.4%となっており、男女とも、1年・2年よりも3年に多くみられる。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子65.1%、女子63.7%、2年では男子62.0%、女子71.6%、3年では男子80.7%、女子88.5%の生徒が「是非行きたい（目標となる）高校・学科がある」と答えている。

そして、「自分自身が納得できる高校・学科を選択して、進学したい」が「よくあてはまる」と答えた者は、1年では男子57.6%、女子47.8%、2年では男子45.1%、女子64.9%、3年では男子43.5%、女子62.9%。これに「どちらかといえばあてはまる」に○を付けた者を合わせると、1年では男子77.3%、女子85.5%、2年では男子73.3%、女子85.2%、3年では男子75.8%、女子91.5%の生徒が「自分自身が納得できる高校・学科を選択して、進学したい」と答えている。

結 び

中学校における進路指導は、元来、「個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」（学校教育法第36条第2号）という中学校教育の目標を達成するための重要な教育活動であり、学習指導要領の総則にも明示されているように「学校の教育活動全体を通じ、計画的、継続的」に行うことを基本原則としている。

進路指導の考え方は、1970年代の半ば頃から、大きく変わって、将来の職業生活等における自己実現が重視され、「人生設計」（将来の生活の設計）とか、「生き方」といったことが強調されるようになった。

これからの教育の在り方として、「【ゆとり】の中で子どもたちに【生きる力】をはぐくんでいくことが基本である」（中央教育審議会第一次答申）との考えが強調される中、一人ひとりの生徒が【生きる力】をはぐくみ、自らの生き方を考え、将来の生活や人生に自分なりの夢や希望が持って、主体的に生きていくことを支援する進路指導の実践が強く望まれている。

そうした状況の中で、田原中学校は「夢や希望を持ち、未来を切り拓く生徒の育成——生きる力を育てる進路指導のあり方をめざして」を研究テーマとして、平成9年度から3年間、進路指導の研究実践に取り組み、平成11年11月2日（火）にその成果が発表されている。

本稿は、田原中学校の研究実践の内容と渡邊明子が職業指導教室に在学中、田原中学校の協力を得て実施した「中学生の親子関係とキャリア発達」に関する調査の中から、「将来の生活や人生（生き方）」に対する関心や意欲・態度などについての調査結果をまとめたものである。

（平成11年11月22日受理）

<引用文献等>

- ① 愛知県中島郡平和町立平和中学校 1994 平成6年度研究紀要「社会の一員として自己を生かすことのできる生徒の育成——家庭・地域社会・学校が一体となって生徒の可能性をのばす進路指導の在り方」はじめにより
- ② 前掲書① 9頁。
- ③ 前掲書① 5頁。
- ④ 愛知県渥美郡田原町立田原中学校 1998 平成10年度教育研究集録「夢や希望を持ち、未来を切り拓く生徒の育成——生きる力を育てる進路指導のあり方をめざして」 1～4頁。
- ⑤ 田原中学校 1999 研究紀要「夢や希望を持ち、未来を切り拓く生徒の育成——生きる力を育てる進路指導のあり方をめざして」 3～5頁。
- ⑥ 田原中学校 1999 資料集 1頁及び3頁。